

薬害と判明してから、訴訟となり、司法解決が図られ、患者の救済と恒久対策が国の責務となった。診断基準は、同剤の服用歴と、腹部症状が先行する亜急性発症の感覚・運動障害、それに視神経障害を伴うことが基本であり、以降、それに準拠している。

1970年のキノホルム禁止後、新規発症患者は殆どなく、したがって時間の経過とともに本班による恒久対策の対象となる患者の絶対数は減少し、平均年齢は高齢化している。現在の体制で全国のスモン患者の検診を開始した昭和63年度の健康管理手当受給者数は4,714人であったが、平成20年度は2,265人、25年度は1,748人であり、毎年約100人の割合で減少している。検診は毎年、健康管理手当受給者の40%前後を行っているが、3年間の合計実人数から算定すると、健康管理手当受給者の約53%を検診した。

平成25年度、「スモンに関する調査研究班」による検診を受けたスモン患者の平均年齢は78.5歳となり、65歳以上の高齢者は93.8%であり、75歳以上のいわゆる後期高齢者は70%を占め、20年度より平均年齢は2.4歳、後期高齢者は約10%増加している。

発症後40年以上を経て患者は高齢化し、スモン本来の症状に加えて、それに起因する身体症状、あるいは高齢化により、医学状況は悪化していることは容易に推察でき、また検診による種々のデータもこのことを示している。しかし、ADLやQOLに関連性の強い歩行能力をみると、歩行不能や介助・杖歩行の患者の割合は56.6%であり、ADL指標のBarthel Indexが75点以下は約3分の1であり、3年前と変化はほとんどない。患者の障害要因はスモン単独とするものは少なく、スモン+併発症（合併症）ないしはスモン+加齢が併せて約80%を占めるようになって来ており、その併発症も高齢化との関連性が強い疾患が多い。

療養状況は長期に施設入所する人の割合はここ数年10%前後で著変はないが、一方で高齢の独居スモン患者が28%におよび、重症以上の障害度が27%を占める実態が明らかにされた。スモン患者の孤立化傾向なども併せて高齢化による医療および介護の対策が必要である。

また、若年発症スモン患者もほとんどが50歳代となり、介護者だった親の死亡や介護能力喪失、十分な

経済力がないままに高齢化世代に入るなど、今後対応を考えなければいけない問題が控えている。

介護・福祉の検討では、介護保険の申請率は50.5%であり、制度発足等に平成16年度の42%から毎年毎年徐々に増加し、24年度からは検診受診者の半数以上となった。また、最重度の要介護度5に判定された割合も4.6%から7.0%に増加している。平成25年度の受診者での結果を年度初頭の薬害救済基金受給者数1,748人から推定すると、要支援が1と2を併わせて258人、要介護1と2は併せて338人、要介護3以上は243人となり、非受診者にやや重症者が多い可能性を考慮すると、この数字より若干多いと思われる。しかし、スモン患者の判定への不満は改善されていない。

スモン患者の検診は、昭和63（1988）年度より全国的に組織的に行われており、それ以前より一部の地域で継続的になされていた。したがって、同一疾患患者集団の臨床的・社会医学的記録として貴重なものであり、そのデータベース化を継続しており、平成25年度末には、昭和54年度からの検診者のべ、29,016人、実人数3,789人のデータベース化が完成した。今後、さらに発症当時までの診療・検診記録の探査と、データベース化する必要がある。徐々にデータベースを基にした検討が、若年発症スモン、独居スモン患者、歩行能力、スモンとパーキンソン病の合併率、幸福度などの検討で行われており、今後もさらに縦断的、多面的検討を行い、スモンの障害について明らかにし、本症の恒久対策や障害者一般の対策に利することを期したい。

データベース解析では、ADL、生活機能と生活満足度の経年的な悪化傾向、および、ADLと生活機能の項目別の15年間での低下傾向が観察された。また、日常生活満足度）評価表を用いた全国調査においては、体の健康への不満が強いことが明らかにされ、うつなどの精神症状とも併せて、支援が必要である。

スモン患者のADL低下の主要要因は歩行能力の低下であり、バランス機能障害がその歩行能力障害の原因となっている。データベースの比例ハザード分析により、歩行悪化に関連する要因は、年齢、中等度の下肢筋力低下、高度の下肢振動覚障害であった。運動能力の経時的検討では、運動項目別では抗重力筋を主に

用いる膝立ち上がり動作の障害が年齢とともに顕著となっており、歩行能力を維持するには下肢筋力低下の予防や、持続的なりハビリテーションが重要である。

スモンの原因が疫学的研究および動物実験から Clioquinol（キノホルム）であるのは明らかだが、詳細なメカニズムについては未解明なままである。培養細胞を用いた研究では、Clioquinol による酸化ストレスが神経細胞障害をきたすこと、アポトーシスをきたすなどのメカニズムが明らかにされた。また、キノホルムにより発現が変動する遺伝子を DNA チップを用いて網羅的に解析したところ、痛み反応に関与することが知られる神経ペプチド前駆体 VGF の発現が上昇することを見出し、キノホルムは転写因子 c-Fos の発現誘導を介して神経ペプチド前駆体 VGF の発現を誘導することを明らかにした。スモンにおいては自発痛や異常知覚が主症状であることから、この知見は注目すべきことと考えられる。

一方、Clioquinol はキレート作用や細胞障害性から、抗認知症剤や抗腫瘍剤の可能性が検討されているが、Clioquinol に神経毒性があることより、そのような流れに慎重な見解を示す必要がある。その際において、以前の臨床医学的および疫学的結果からスモンが本剤の有害事象であることを述べるだけでなく、現代の生物学的検討によった神経細胞毒性も強調する必要がある。

以前からの本班の研究成果や得られた知見を還元するため、従来の市民公開講座「スモンの集い」の開催のみならず、療養の手引きや啓発用冊子や DVD を作成した。従来は、スモンの患者団体を經由して配布していたようだが、効率性や種々の問題より、本班より直接個々のスモン患者に郵送にて配布する方式にかえた。概ね、良好な反応と感謝の声が寄せられている。併せて、検診非受診患者のアンケート等による療養状況の全国調査と安否確認が可能となった。

スモン患者の現状は、本来の視覚障害、運動障害、感覚障害に加えて、様々な身体的随伴症状が加わり、患者の医学的状況や生活の質の低下を来たしてきており、良好な健康状態の維持が必要である。転倒の予防や、骨粗鬆症対策に加え、最近では班員によって、嚥下障害や栄養の問題が取り上げられている。これらのこ

とは、検診の場を通じたり、市民公開講座「スモンの集い」や患者への配布冊子で、啓発、指導をかさねてきている。将来に亘ってこのような継続的啓発活動を行っていかねばならない。

II. 分担研究報告

平成 25 年度検診からみたスモン患者の現況

小長谷正明（国立病院機構鈴鹿病院）
久留 聡（国立病院機構鈴鹿病院）
藤木 直人（国立病院機構北海道医療センター神経内科）
千田 圭二（国立病院機構岩手病院）
亀井 聡（日本大学神経内科）
祖父江 元（名古屋大学神経内科）
小西 哲郎（がくさい病院）
坂井 研一（国立病院機構南岡山医療センター神経内科）
藤井 直樹（国立病院機構大牟田病院）
橋本 修二（藤田保健衛生大学衛生学講座）
田中千枝子（日本福祉大学社会福祉学部）
寶珠山 稔（名古屋大学大学院リハビリテーション療法学）

研究要旨

本年度検診総数は 686 例で、683 例（男：女＝213：470）がデータ解析に同意し、うち新規検診受診者は 17 例である。

男女比は 213：470、平均年齢は 78.5±8.5 歳であり、年齢構成は 49 歳以下 0.3%、50-64 歳 5.9%、65-74 歳 23.7%、75-84 歳 45.4%、85 歳以上 24.7%であった。

身体症状は指数 1 以下の高度の視力障害 8.8%、杖歩行以下の歩行障害 56.7%、中等度以上の異常感覚 74.5%であった。何らかの身体的随伴症状（いわゆる合併症）は、回答者の 99.0%にあり、白内障 60.3%、高血圧 54.5%、四肢関節疾患 35.3%、脊椎疾患 41.9%などの内訳である。55.4%に精神徴候を認め、認知症は 9.6%であった。

診察時の障害度は極めて重度 5.2%、重度 21.3%、中等度 44.5%であり、障害要因はスモン＋併発症が 67.1%と 2/3を占めていた。介護保険は 683 人中 3345 人 50.5%が申請しており、要介護 4 と 5 は併わせて 54 名で、受診者全体の 7.9%であった。療養上の問題は医学上 82.8%、家族や介護 47.9%、福祉サービス 19.7%、住居経済 17.7%であった。

A. 研究目的

本年度検診結果からみた全国のスモン患者の現況を把握し、高齢化しつつあるスモン患者療養支援の基礎資料とする。

B. 研究方法

本班班員を中心として、保健所などの行政機関、患者団体が協力して「スモン現状調査個人票」に基づい

て問診と診察を行い、橋本班員により集計／解析が行われた。

C. 研究結果

本年度検診結果の詳細は、1979 年度からの検診結果一覧表と併せて、総括報告書の後に掲載した。

本年度検診総数は 686 例で、うち 683 例（男：女＝213：470）がデータ解析に同意したが、昨年度の 730

例より47例減少した。新規検診受診者は17例である。地区別には北海道63、東北58、関東・甲越118、中部117、近畿115、中国・四国148、九州64例であった。平均年齢は78.5±8.5歳（男77.1±8.4歳：女79.1±8.5歳）であり、年齢構成は49歳以下0.3%（1人：1人）、50-64歳5.9%（24人：40人）、65-74歳23.7%（54人：108人）、75-84歳45.4%（104人：206人）、85歳以上24.7%（38人：131人）であった。

現在の視覚障害（回答数651）は全盲、指数弁以下、新聞の大見出し程度が夫々、1.4%、7.4%、31.2%であり、新聞の細かい字と正常は45.0%と15.1%であった。歩行障害（回答数666）は不能、つかまり歩き以下、杖歩行が夫々、9.2%、23.3%、24.1%であり、かなり不安定独歩とやや不安定独歩およびふつうは夫々11.4%、23.9%、8.3%であった。下肢筋力低下（回答数659）と痙縮（回答数657）の中等度以上の障害は夫々、44.0%、26.0%であり、触覚（回答数648）と痛覚（回答数646）、振動覚障害（回答数644）では夫々、49.8%、44.5%、73.3%であった。過敏は触覚11.6%、痛覚24.5%であった。異常感覚（回答数647）では中等度以上が74.5%にみられており、発症当初との比較（回答数629）では悪化、不変、軽減が夫々18.3%、22.3%、59.4%である。

自律神経症状では、皮膚温低下（回答数652）が71.8%、臥位血圧（回答数683）が収縮期160<or拡張期95<の人が21.2%、尿失禁（回答数667）が58.0%、大便失禁（回答数664）が27.7%みられている。胃腸障害（回答数656）は75.3%にあり、20.9%はひどく悩んでおり、3.2%はしばしば腹痛を訴えている。

身体的随伴症状（併発症：回答数668）は99.0%にみられており、高率なものは白内障60.3%（影響のあるもの13.3%）、高血圧54.5%（9.7%）、心疾患24.7%（7.2%）、脊椎疾患41.9%（12.9%）、四肢関節疾患35.3%（11.7%）であった。また、骨折は19.0%（5.2%）脳血管障害は10.8%（3.7%）糖尿病16.0%（5.7%）パーキンソン症状2.8%（1.2%）、悪性腫瘍9.7%（2.1%）であった。また、精神徴候（回答数664）は55.4%に認められており、不安・焦燥27.3%（影響のあるもの6.9%）、心氣的12.3%（4.2%）、抑うつ19.9%（4.2%）、認知症9.6%（5.7%）である。

診察時の障害度（回答数667）は極めて重度5.2%、重度21.3%、中等度44.5%であり、障害要因（回答数667）はスモン21.6%、スモン+併発症67.1%、併発症3.5%、スモン+加齢7.8%である。Barthel Index（回答数683）は20点以下7.3%、25-40点4.4%、45-55点5.4%、60-75点17.9%、80-90点27.1%、95点18.0%、100点19.9%であった。過去5年間の療養状況（回答数671）は在宅73.8%、ときどき入院/所16.7%、長期入院/所9.5%であった。

介護保険は50.5%（345人）が申請し、自立0.9%（3）、要支援1度10.8%（37）、要支援2度18.7%（64）、要介護1度14.3%（49）、要介護2度24.3%（83）、要介護3度12.0%（41）、要介護4度8.8%（30）、要介護5度7.0%（24）であった。

療養上の問題は医学上82.8%、家族や介護47.9%、福祉サービス19.7%、住居経済17.7%であった。

D. 考察

スモンは、1950年代から70年にかけて、わが国で多発した神経疾患であり、整腸剤キノホルムが原因の薬害と判明してから、訴訟となり、司法解決が図られ、患者の救済と恒久対策が国の責務となった。診断基準は、同剤の服用歴と、腹部症状が先行する亜急性発症の感覚・運動障害、それに視神経障害を伴いうことが基本であり、以降、それに準拠している。

1970年のキノホルム禁止後、新規発症患者は殆どなく、したがって時間の経過とともに本班による恒久対策の対象となる患者の絶対数は減少し、平均年齢は高齢化している。現在の体制で全国のスモン患者の検診を開始した昭和63年度の健康管理手当受給者数は4,714人であったが、平成20年度は2,265人、25年度は1,748人であり、毎年約100人の割合で減少している。検診は毎年、健康管理手当受給者の40%前後を行っているが、3年間の合計実人数から算定すると、健康管理手当受給者の約53%を検診した。

平成25年度、「スモンに関する調査研究班」による検診を受けたスモン患者の平均年齢は78.5歳となり、65歳以上の高齢者は93.8%であり、75歳以上のいわゆる後期高齢者は70%を占め、20年度より平均年齢は2.4歳、後期高齢者は約10%増加している。

発症後 40 年以上を経て患者は高齢化し、スモン本来の症状に加えて、それに起因する身体症状、あるいは高齢化により、医学状況は悪化していることは容易に推察でき、また検診による種々のデータもこのことを示している。しかし、ADL や QOL に関連性の強い歩行能力をみると、歩行不能や介助・杖歩行の患者の割合は 56.6% であり、ADL 指標の Barthel Index が 75 点以下は約三分の一であり、3 年前と変化はほとんどない。患者の障害要因はスモン単独とするものは少なく、スモン＋併発症（合併症）ないしはスモン＋加齢が併せて約 80% を占めるようになって来ており、その併発症も高齢化との関連性が強い疾患が多い。

療養状況は長期に施設入所する人の割合はここ数年 10% 前後で著変はないが、一方で高齢の独居スモン患者が 28% におよび、重症以上の障害度が 27% を占める実態が明らかにされた。スモン患者の孤立化傾向なども併せて高齢化による医療および介護の対策が必要である。

また、若年発症スモン患者も、ほとんどが 50 歳代となり、介護者だった親の死亡や介護能力喪失、十分な経済力がないままに高齢化世代に入るなど、今後対応を考えなければいけない問題が控えている。

介護・福祉の検討では、介護保険の申請率は 50.5% であり、制度発足等に平成 16 年度の 42% から毎年毎年徐々に増加し、24 年度からは検診受診者の半数以上となった。また、最重度の要介護度 5 に判定された割合も 4.6% から 7.0% に増加している。平成 25 年度の受診者での結果を年度初頭の薬害救済基金受給者数 1748 人から推定すると、要支援が 1 と 2 を併わせて 258 人、要介護度 1 と 2 は併せて 338 人、要介護 3 以上は 243 人となり、非受診者にやや重症者が多い可能性を考慮すると、この数字より若干多いと思われる。しかし、スモン患者の判定への不満は改善されていない。

スモン患者の検診は、診察の場であると同時に、患者にとっては医療や福祉についての相談や啓発を受ける機会であり、評価を受けている。個々の検診場面では受診者の状況に応じた、必要なアドバイスをを行うスタンスも、恒久対策という面からも重要である。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 小長谷正明ら：スモン全国検診の総括.厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）スモンに関する調査研究班・平成 24 年度総合研究報告書 p 23-32, 2013.

スモンに関する調査研究班検診結果集計・経過一覧表(抜粋)

現在の当班での、『スモン現状調査個人票』を用いた全国的な検診システムは1988年からである。

それ以前のデータは、一部の研究者が限られた範囲で診察した結果を現在の『スモン現状調査個人票』に転記して集計したものであり、扱いには注意を要する。あくまで参考資料として収載した。

表1 検診患者数および薬害救済基金よりの健康管理手当受給者数

検診年度	検診総数	女	男	新規受診者数	健康管理手当受給者数
	人	人	人	人	人
1979	204	142	64		
1980	269	194	75		
1981	364	267	97		
1982	467	342	125		
1983	542	399	143		
1984	606	460	146		
1985	417	308	109		
1986	524	388	136		
1987	580	431	149		
1988	834	642	192		4714
1989	1127	877	250		4603
1990	1205	913	292		4492
1991	1073	270	803		4385
1992	1155	266	889		4266
1993	1107	824	283	134	4138
1994	1120	853	267	110	4012
1995	1084	800	274	71	3849
1996	1042	778	264	65	3705
1997	1141	839	300	87	3556
1998	1040	762	278	53	3424
1999	1149	851	298	88	3308
2000	1073	789	284	58	3182
2001	1036	738	298	51	3057
2002	1035	759	276	33	2936
2003	991	722	269	28	2812
2004	1041	769	272	55	2709
2005	942	680	264	19	2594
2006	912	659	253	15	2499
2007	890	640	250	21	2376
2008	911	666	245	38	2265
2009	867	627	240	34	2176
2010	787	550	237	18	2071
2011	766	545	221	12	1991
2012	730	512	218	17	1855
2013	683	470	213	17	1748

表2 検診受診者年齢構成

検診年度	検診総数	49歳以下	50-64歳	65-74歳	75-84歳	85歳以上
	人	%	%	%	%	%
1979	204	15.0	46.0	29.0	10.0	0.0
1980	269	16.0	47.0	28.0	9.0	0.0
1981	364	15.0	40.0	33.0	12.0	1.0
1982	467	15.0	45.0	28.0	11.0	1.0
1983	543	13.0	44.0	28.0	13.0	2.0
1984	606	13.0	42.0	29.0	14.0	2.0
1985	417	13.0	36.0	30.0	18.0	2.0
1986	524	11.0	38.0	31.0	18.0	3.0
1987	580	11.0	39.0	29.0	18.0	3.0
1988	834	10.1	40.2	32.0	15.8	1.9
1989	1127	8.1	36.5	34.1	19.1	2.3
1990	1205	5.0	17.0	13.0	9.0	0.0
1991	1073	6.5	35.7	32.9	21.3	3.5
1992	1155	6.2	33.8	33.7	21.6	4.8
1993	1107	5.4	34.6	35.4	24.5*	
1994	1120	5.2	32.6	35.2	27.0*	
1995	1084	3.9	26.3	38.6	31.2*	
1996	1042	3.8	27.0	37.0	32.1*	
1997	1141	3.2	24.1	37.5	28.0	7.2
1998	1040	2.4	22.9	38.2	28.0	8.6
1999	1149	2.3	21.3	38.4	29.2	8.8
2000	1073	1.9	20.0	37.7	30.6	9.9
2001	1036	1.4	18.3	38.0	31.4	10.8
2002	1035	1.1	16.8	38.7	32.4	11.0
2003	991	0.9	16.4	38.7	31.2	12.7
2004	1041	0.7	15.1	36.2	35.0	13.1
2005	942	0.8	12.6	36.8	36.5	13.2
2006	912	0.7	11.1	35.2	37.9	15.1
2007	890	0.3	10.9	31.7	41.6	15.5
2008	911	0.4	9.1	30.8	42.5	17.1
2009	867	0.1	9.2	30.1	42.4	18.1
2010	787	0.3	9.9	28.5	42.6	18.8
2011	766	0.4	8.0	26.2	44.3	21.1
2012	730	0.1	8.1	23.3	45.8	22.7
2013	682	0.3	5.9	23.7	45.4	24.7

* 85歳以上を含む

表3 地区別検診受診者数

検診年度	検診総数	北海道	東北	関東・甲越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州
	人	人	人	人	人	人	人	人
1979	204	3	3	66	34	23	23	52
1980	269	2	4	110	66	18	25	44
1981	364	31	5	132	26	67	70	33
1982	467	65	13	179	117	30	28	35
1983	543	119	12	192	35	27	79	58
1984	606	146	56	185	81	33	64	41
1985	417	155	10	26	72	44	58	52
1986	580	158	37	67	81	69	52	60
1987	580	164	29	75	106	36	104	66
1988	834	138	83	173	123	158	110	49
1989	1127	163	84	252	215	173	142	98
1990	1205	161	96	272	174	198	191	113
1991	1073	158	105	270	184	131	150	75
1992	1155	144	108	300	211	137	170	85
1993	1107	143	90	294	187	149	158	83
1994	1120	143	90	310	176	116	185	100
1995	1084	132	100	288	164	143	169	88
1996	1042	110	98	265	175	117	179	99
1997	1141	115	121	250	197	144	216	97
1998	1040	123	109	240	146	134	198	90
1999	1149	118	89	288	165	159	218	112
2000	1073	115	88	212	193	156	216	93
2001	1036	110	88	215	158	167	197	107
2002	1035	110	88	193	164	170	207	103
2003	991	105	86	189	163	163	196	87
2004	1041	102	83	183	150	221	202	100
2005	942	102	82	160	134	177	195	92
2006	912	97	81	140	156	158	192	88
2007	890	94	71	151	143	153	199	81
2008	911	88	68	139	141	145	257	73
2009	867	82	75	145	132	139	221	73
2010	787	75	75	130	119	127	182	79
2011	766	72	71	126	100	147	175	75
2012	730	64	57	125	111	145	163	65
2013	682	63	58	118	117	115	148	64

表 4-1 現在の視力

検診 年度	記載 総数	全盲	明暗・手動弁 ・指数弁	新聞 大見出し	新聞小文字・ ほとんど正常
	人	%	%	%	%
1979	186	2.2	4.9	16.7	76.3
1980	182	0.5	4.3	12.1	83.0
1981	260	3.5	5.0	15.4	76.1
1982	437	3.0	5.7	21.7	69.5
1983	330	4.3	6.0	23.1	66.6
1984	342	2.6	7.3	25.7	64.4
1985	371	2.7	10.3	30.5	56.6
1986	459	3.3	8.3	27.7	60.8
1987	512	3.1	6.5	25.4	65.1

1988	797	2.5	7.2	32.4	58.0
1989	1062	2.0	6.6	31.4	60.1
1990	1132	1.6	7.3	29.6	61.5
1991	1039	1.4	7.3	31.8	59.5
1992	1144	1.8	6.6	30.2	61.3
1993	1040	2.1	6.8	29.9	61.2
1994	1086	1.4	6.1	31.3	60.9
1995	1052	1.9	7.0	30.4	60.8
1996	1001	2.4	6.1	31.0	60.4
1997	1092	2.1	6.4	29.5	62.1
1998	1009	2.3	5.5	30.3	61.9
1999	1101	2.0	6.1	31.8	60.0
2000	1017	2.2	6.3	32.6	58.8
2001	1001	1.8	6.8	31.1	60.2
2002	993	1.6	6.2	33.7	58.6
2003	959	1.9	6.4	31.0	60.8
2004	1001	1.6	7.3	33.1	58.0
2005	923	1.6	6.8	32.8	58.7
2006	880	1.7	7.0	31.3	59.9
2007	863	1.5	5.9	29.9	62.7
2008	917	1.5	6.0	33.8	58.8
2009	833	1.7	6.2	31.0	61.1
2010	763	2.1	7.7	31.2	59.0
2011	744	1.3	6.8	33.1	58.7
2012	708	1.6	7.6	30.8	60.0
2013	650	1.4	7.4	31.2	60.1

表 4-2 現在の歩行能力

検診 年度	記載 総数	不能・ 車いす	介助・摺 まり歩行	杖歩行	不安定 歩行	ふつう
	人	%	%	%	%	%
1979	201	7.5	5.5	23.9	45.8	17.4
1980	184	7.0	5.9	22.7	59.0	4.9
1981	286	11.8	7.3	23.1	52.1	4.5
1982	464	10.2	7.8	24.7	49.8	7.5
1983	342	11.7	8.8	24.9	46.9	7.6
1984	590	13.6	7.5	23.4	51.0	4.6
1985	398	14.6	11.3	47.0	46.2	5.0
1986	500	14.6	9.0	23.2	46.0	7.2
1987	548	14.6	9.0	20.6	50.9	4.9

1988	828	11.2	9.2	22.1	48.4	9.1
1989	1119	10.3	10.7	22.3	48.1	8.6
1990	1187	12.0	11.4	26.8	51.5	9.2
1991	1071	9.9	10.1	20.4	42.4	8.1
1992	1154	10.2	9.6	24.2	48.4	7.5
1993	1074	10.3	8.6	24.5	48.0	8.5
1994	1001	11.4	11.6	23.0	47.1	9.0
1995	1061	12.5	8.6	3.2	46.5	9.1
1996	1011	11.2	9.9	22.4	47.6	9.0
1997	1106	10.1	10.3	22.5	47.2	9.9
1998	1026	13.2	14.1	23.2	44.7	10.0
1999	1113	10.4	10.9	23.6	46.1	8.8
2000	1024	12.4	9.9	23.2	46.0	8.6
2001	1006	11.9	10.6	24.2	44.1	9.0
2002	993	12.7	12.9	24.7	41.0	10.1
2003	961	13.1	12.3	24.4	40.2	9.9
2004	1021	13.1	12.1	26.0	38.6	10.2
2005	930	16.7	13.9	25.2	36.4	11.0
2006	888	14.6	14.3	25.1	36.0	9.9
2007	871	16.5	14.1	23.7	34.8	10.4
2008	831	15.3	15.4	23.9	34.4	11.0
2009	844	17.9	15.9	25.8	30.9	9.6
2010	774	17.3	15.0	24.6	31.0	10.1
2011	757	17.2	14.4	24.7	35.4	8.3
2012	721	19.0	14.1	23.5	34.4	8.9
2013	665	17.3	14.2	24.1	35.3	8.3

表 4-3 下肢筋力低下

検診年度	記載総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	7	14.3		57.1	28.6
1980	7	14.3	14.3	57.1	14.3
1981	28	21.4	21.4	39.3	17.9
1982	382	12.0	25.1	42.9	19.9
1983	247	11.4	27.6	43.1	17.9
1984	247	12.1	29.6	36.4	21.9
1985	158	12.0	22.8	40.5	24.7
1986	239	14.6	32.2	36.4	16.7
1987	184	8.7	23.9	44.0	23.4

1988	819	12.0	27.4	46.5	14.4
1989	1101	10.3	29.7	43.3	16.7
1990	1183	10.9	27.2	42.7	19.2
1991	1053	10.1	30.3	42.0	17.7
1992	1152	10.0	26.1	46.7	17.2
1993	1074	10.6	29.3	42.8	17.4
1994	1103	10.4	28.8	43.6	17.3
1995	1061	11.5	29.4	42.0	17.1
1996	1014	10.3	29.6	45.0	15.2
1997	1110	10.5	26.6	44.2	18.6
1998	1020	10.4	26.8	43.1	19.6
1999	1114	9.8	30.1	43.4	16.7
2000	1019	12.3	28.6	41.6	17.4
2001	1007	11.9	31.3	38.6	18.3
2002	1002	14.4	28.2	38.3	19.2
2003	963	13.4	27.6	40.8	18.2
2004	974	14.1	27.5	40.6	17.9
2005	928	14.4	28.0	37.2	20.4
2006	873	13.5	29.7	35.4	21.4
2007	868	16.1	28.6	36.1	19.2
2008	828	14.9	29.3	34.5	21.3
2009	837	16.0	27.4	36.3	20.3
2010	768	15.5	27.2	34.8	22.5
2011	737	17.6	26.3	34.9	21.2
2012	713	17.8	27.1	35.6	19.5
2013	658	18.7	25.3	37.2	18.8

表 4-4 下肢痙縮

検診年度	記載総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	182	7.7	14.3	34.1	44.0
1980	133	9.0	23.3	33.8	33.9
1981	192	6.8	27.1	28.6	37.5
1982	102	6.9	11.8	29.4	52.0
1983	177	7.4	21.0	22.2	49.4
1984	211	7.6	24.2	30.3	37.9
1985	153	5.9	13.7	19.0	61.4
1986	236	8.1	16.9	29.2	45.8
1987	180	7.2	11.7	31.1	50.0

1988	814	9.0	21.5	32.1	37.5
1989	1090	8.3	22.1	31.9	37.7
1990	1171	7.7	19.0	32.7	40.6
1991	1049	3.3	12.3	38.2	47.1
1992	1154	7.4	21.8	33.5	37.1
1993	1072	9.0	21.3	30.4	39.5
1994	1100	7.2	20.7	33.1	39.1
1995	1061	8.2	20.0	31.1	40.8
1996	1015	7.1	21.7	33.1	38.1
1997	1108	7.3	20.1	33.3	39.2
1998	1017	7.4	21.1	31.3	40.3
1999	1114	7.5	22.5	32.2	37.7
2000	1016	7.9	19.9	29.3	42.9
2001	1006	7.8	17.5	30.3	44.4
2002	1003	8.6	18.4	27.3	45.8
2003	962	8.4	17.4	28.4	46.0
2004	972	7.7	17.2	26.3	48.8
2005	926	8.0	17.4	27.0	47.6
2006	873	7.4	18.8	26.6	47.2
2007	862	8.8	17.7	27.6	45.8
2008	926	8.0	18.3	28.2	45.6
2009	831	8.4	17.3	28.6	45.6
2010	766	7.6	14.5	33.6	44.4
2011	732	7.4	17.5	32.1	43.0
2012	712	7.4	16.2	31.5	44.9
2013	656	8.5	17.5	30.0	44.0

表 4-5 触覚

検診 年度	記載 総数	高度	中等度	軽度	過敏	なし
	人	%	%	%	%	%
1979	199	27.6	43.2	25.1	1.5	2.5
1980	147	19.7	60.5	10.9	5.4	3.4
1981	228	22.8	54.4	17.1	3.1	2.6
1982	436	15.3	66.2	14.1	3.3	1.2
1983	243	19.0	62.4	14.9	2.9	0.8
1984	239	14.2	68.6	16.3	0.8	0.0
1985	138	13.0	67.4	18.8	0.7	0.0
1986	214	16.8	63.1	16.8	2.3	0.9
1987	163	9.8	70.6	16.0	2.5	1.2

1988	823	13.0	52.9	23.9	6.8	3.4
1989	1095	11.5	50.0	28.2	7.0	3.7
1990	1165	11.7	47.7	28.6	7.5	4.5
1991	1056	12.3	52.7	24.0	6.9	3.2
1992	1153	12.0	50.0	26.6	8.1	3.0
1993	1074	10.9	50.4	26.9	9.8	2.1
1994	1100	10.8	49.2	29.4	8.0	2.5
1995	1056	10.6	52.9	25.7	7.3	3.6
1996	1008	11.1	50.4	27.4	8.1	3.2
1997	1102	9.9	48.1	30.5	7.7	3.7
1998	1014	11.3	48.6	29.8	7.7	2.6
1999	1108	11.9	46.8	31.2	6.7	3.3
2000	1013	9.9	42.3	35.0	8.4	4.6
2001	998	10.7	41.1	35.6	8.4	4.3
2002	1001	11.3	42.0	33.0	9.3	4.4
2003	954	11.0	40.7	33.5	10.3	4.5
2004	971	9.7	42.8	34.4	8.9	4.2
2005	922	8.9	45.4	32.1	9.4	4.1
2006	876	9.3	44.6	32.5	9.4	4.1
2007	852	9.5	43.2	33.7	9.3	4.3
2008	818	10.0	45.4	35.0	8.2	3.9
2009	826	10.4	44.2	32.9	9.4	3.0
2010	757	10.0	38.7	37.3	10.3	3.7
2011	729	9.7	39.5	33.7	12.8	4.3
2012	696	9.9	40.8	32.0	11.8	5.5
2013	647	9.4	40.4	33.2	11.6	5.4

表 4-6 痛覚

検診 年度	記載 総数	高度	中等度	軽度	過敏	なし
	人	%	%	%	%	%
1979	197	21.3	46.2	25.9	4.1	2.5
1980	147	12.9	55.8	10.9	17.0	3.4
1981	213	25.0	42.1	19.4	9.3	4.2
1982	135	17.8	33.3	14.8	29.6	4.4
1983	34	12.1	48.5	12.1	21.2	6.1
1984	10	20.0	60.0	20.0		
1985	10	30.0	40.0		30.0	
1986	12		33.3	25.0	25.0	16.7
1987	21	9.5	66.7	4.8	14.3	4.8

1988	818	10.8	43.2	24.4	18.3	3.3
1989	1086	8.5	43.6	24.6	19.7	3.7
1990	1165	9.2	40.6	25.1	20.7	4.5
1991	1053	10.3	45.1	22.3	19.0	3.3
1992	1148	9.7	42.9	24.4	19.6	3.5
1993	1069	9.8	41.1	23.7	22.8	2.7
1994	1098	9.9	42.9	26.6	18.1	2.7
1995	1053	10.1	44.9	24.2	17.8	3.1
1996	1005	10.5	43.2	25.9	17.9	2.7
1997	1101	9.3	40.9	25.0	21.9	3.8
1998	1016	11.0	41.2	25.3	20.3	2.3
1999	1107	11.5	41.1	26.5	18.1	2.9
2000	1013	10.4	35.6	29.5	21.7	2.9
2001	997	11.1	34.4	30.5	19.8	4.3
2002	999	12.0	35.0	27.6	21.7	3.6
2003	956	11.0	34.8	27.9	22.2	4.1
2004	971	9.8	36.0	29.1	20.9	4.1
2005	904	8.5	37.7	26.7	23.3	3.8
2006	880	9.4	37.4	27.8	21.0	3.8
2007	855	9.1	36.4	28.0	22.2	4.3
2008	816	10.0	38.4	26.3	21.3	3.9
2009	828	10.7	34.8	27.8	22.9	3.7
2010	757	9.2	33.3	28.8	23.5	5.2
2011	729	9.1	33.1	26.9	25.7	5.3
2012	698	9.9	33.1	26.6	24.2	6.2
2013	645	9.4	35.1	25.2	24.5	5.7

表 4-7 振動覚

検診年度	記載総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	198	40.9	36.9	21.2	1.0
1980	146	35.6	47.3	14.4	2.7
1981	231	35.9	43.3	16.0	4.8
1982	447	32.0	48.5	16.3	3.1
1983	261	28.1	46.5	18.5	6.9
1984	245	21.2	58.0	15.9	4.9
1985	152	23.0	35.5	32.2	9.2
1986	226	26.1	43.4	22.6	8.0
1987	170	21.8	47.6	21.8	8.8

1988	817	33.5	41.7	18.5	6.2
1989	1050	32.6	42.0	18.8	6.7
1990	1141	33.0	38.6	20.4	8.0
1991	1019	26.0	57.2	17.3	1.9
1992	1143	31.8	41.6	22.0	4.5
1993	1046	31.2	41.7	22.2	4.8
1994	1084	33.3	38.1	24.5	4.1
1995	1053	33.7	40.2	22.1	4.1
1996	1006	35.1	42.0	18.8	4.1
1997	1093	33.9	37.4	24.0	4.7
1998	1011	33.6	39.2	22.6	4.5
1999	1099	32.8	37.6	24.9	4.6
2000	1007	34.3	36.4	25.1	4.3
2001	993	33.9	34.6	27.5	4.2
2002	988	36.0	34.6	25.2	4.2
2003	947	35.7	34.8	24.6	4.9
2004	962	35.8	35.8	24.5	4.0
2005	907	35.9	35.8	23.8	4.7
2006	873	35.0	34.1	26.4	4.5
2007	853	36.6	34.5	25.3	3.6
2008	808	35.6	34.9	26.2	3.2
2009	820	34.8	35.9	25.1	4.3
2010	757	32.8	36.7	26.3	4.2
2011	729	32.6	37.7	26.3	3.3
2012	691	36.2	35.9	24.2	3.8
2013	643	38.2	35.1	22.5	4.2

表 4-8 異常知覚

検診年度	記載総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	191	38.7	11.5	45.5	4.2
1980	258	31.8	58.1	10.1	0.0
1981	222	24.3	65.3	8.1	2.3
1982	282	26.6	68.1	5.0	0.4
1983	209	35.1	59.1	4.8	1.0
1984	218	47.7	47.7	3.7	0.9
1985	148	50.0	44.6	4.7	0.7
1986	230	47.0	50.4	2.6	0.0
1987	166	47.0	50.0	2.4	0.6

1988	814	15.2	41.9	18.6	6.3
1989	1077	23.8	57.3	16.7	2.2
1990	1133	13.9	32.7	32.2	21.2
1991	1043	25.4	55.9	16.9	1.8
1992	1136	25.5	57.2	15.9	4.6
1993	1059	22.4	60.4	16.3	1.5
1994	1098	21.5	59.0	17.4	2.1
1995	1054	23.4	56.4	18.7	1.6
1996	1003	22.9	58.2	17.7	1.2
1997	1093	22.1	58.6	16.8	2.5
1998	1010	24.9	56.6	16.9	1.4
1999	1107	22.9	58.6	16.2	2.4
2000	1001	21.5	58.6	16.4	3.4
2001	989	24.5	57.4	15.2	2.9
2002	994	23.3	58.9	15.5	2.3
2003	953	23.2	60.0	14.7	2.1
2004	964	20.0	59.5	17.6	2.8
2005	918	20.0	59.2	18.2	2.6
2006	978	20.0	57.2	19.2	3.5
2007	854	20.5	57.0	18.7	3.7
2008	818	21.0	56.1	18.7	4.2
2009	830	20.5	54.9	20.9	4.0
2010	760	20.4	51.7	23.4	4.5
2011	730	22.5	53.3	20.5	3.7
2012	699	20.7	55.4	19.6	4.3
2013	646	19.8	54.7	21.2	4.3

表5 身体的併発症

検診 年度	記載 総数	あり	白内障	高血圧	CVD	心疾患	肝胆	他消 化器	DM	呼吸器	骨折	脊椎	四肢 関節	腎泌 尿器	パー キン	dyski- nesia	姿勢 振戦	悪性 腫瘍	その他
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1979	102	95.1	22.5	24.5	2.0	5.9	7.8	10.8	1.0	11.8	2.0	11.8	3.9	5.9	1.0	0.0	2.0	2.9	23.5
1980	199	67.8	22.6	23.6	2.0	5.0	5.5	8.5	5.0	8.0	2.0	6.0	1.5	3.5	0.0	0.0	0.0	2.5	11.1
1981	326	69.9	19.9	24.8	2.1	4.6	3.4	5.2	3.1	4.0	3.1	8.6	8.6	4.6	0.3	1.2	0.9	2.1	16.6
1982	438	71.2	20.1	26.5	2.7	7.5	3.7	4.8	2.1	4.1	3.7	13.0	13.0	4.1	2.1	2.0	1.8	1.6	14.2
1983	183	94.0	32.4	25.8	3.8	4.9	2.7	9.9	1.1	6.0	4.9	8.2	10.4	3.8	1.6	0.5	0.0	3.3	22.5
1984	287	98.6	21.6	24.7	3.1	12.2	7.0	18.1	3.1	8.4	2.8	7.7	7.3	8.0	1.7	0.3	0.3	2.8	24.7
1985	361	90.6	37.4	34.9	5.8	17.2	10.2	11.9	6.6	5.5	11.1	8.3	8.0	5.5	2.2	1.9	2.2	2.8	19.9
1986	446	92.4	39.0	41.7	5.2	15.0	9.6	14.1	6.3	4.0	7.8	9.2	10.1	6.3	1.8	1.8	3.6	1.8	22.2
1987	498	94.2	39.4	39.6	6.4	18.1	10.0	14.9	6.8	5.4	8.6	11.2	9.0	9.1	2.0	1.6	3.0	1.8	20.9
1988	834	88.8	30.5	32.5	5.3	21.3	12.1	21.3	6.8	7.2	9.7	19.7	12.7	10.7	1.2	1.0	4.1	2.4	
1989	1127	87.3	28.5	33.8	4.7	18.9	11.9	19.3	5.8	6.4	7.3	19.8	13.7	10.6	1.5	1.0	3.9	1.4	
1990	1205	88.1	29.7	33.6	4.8	18.2	10.9	20.2	5.8	5.8	7.1	15.8	13.3	9.4	1.6	1.1	2.4	1.7	
1991	1073	84.5	29.3	35.4	5.5	18.6	13.1	18.3	4.7	6.8	9.2	18.8	15.8	9.6	1.9	0.7	1.8	2.3	
1992	1155	89.7	31.9	34.5	6.5	19.1	12.8	20.4	6.7	7.1	15.7	22.8	18.4	10.8	1.6	0.7	2.9	3.7	27.8
1993	1107	89.2	32.6	31.4	6.5	12.7	12.9	22.1	5.5	7.8	11.2	22.2	17.9	9.5	1.3	0.6	2.3	2.2	30.4
1994	1120	91.2	41.5	28.9	7.4	18.4	12.6	24.6	6.4	6.6	12.7	23.8	18.7	11.3	1.2	0.4	1.6	2.3	34.3
1995	1084	92.0	46.3	33.6	7.6	18.9	13.4	24.2	7.1	7.5	13.7	26.4	21.1	12.0	1.4	0.4	1.3	2.6	35.1
1996	1042	89.8	43.8	34.1	8.5	17.5	13.5	23.3	6.8	7.9	12.4	25.1	19.8	11.1	1.5	0.6	1.4	2.3	35.1
1997	1141	91.8	43.7	32.9	8.2	18.8	1.6	24.5	7.2	7.8	12.3	29.2	20.7	13.0	1.4	0.8	1.8	3.2	36.7
1998	1040	91.9	47.7	34.1	8.0	18.8	14.7	23.6	9.0	7.8	12.3	33.0	23.7	13.7	1.1	0.5	1.8	3.5	23.3
1999	1149	89.7	49.8	35.2	9.3	18.6	14.4	22.5	8.2	7.6	12.1	30.5	22.5	12.9	1.2	0.6	1.8	3.9	37.0
2000	1073	90.6	51.3	34.5	10.1	18.4	14.5	24.7	9.1	8.7	12.6	31.1	26.7	14.3	1.2	0.8	1.8	3.9	37.9
2001	1036	94.2	53.2	36.4	10.9	21.4	15.9	25.0	10.2	9.9	15.3	35.7	28.8	15.6	1.3	0.8	2.2	4.9	39.5
2002	1035	93.0	56.2	40.2	11.0	22.8	15.0	27.6	11.2	10.0	14.9	35.5	31.5	17.3	1.1	0.4	2.6	5.3	45.7
2003	991	94.4	56.5	41.7	9.6	22.8	14.7	25.2	11.0	9.9	14.2	33.1	31.4	17.3	1.3	0.6	3.2	6.1	47.7
2004	1041	96.7	56.9	42.4	11.3	23.5	13.6	25.6	10.1	9.9	17.4	35.4	31.8	17.0	1.3	1.1	2.8	6.6	47.0
2005	942	96.9	60.8	44.7	11.6	23.0	15.7	26.8	11.7	10.4	14.6	36.8	34.5	20.4	2.0	1.1	2.5	6.5	52.9
2006	912	95.4	58.8	44.8	11.2	24.9	14.3	26.6	11.1	9.6	16.6	37.8	29.1	18.9	2.1	0.5	3.0	6.3	51.5
2007	890	96.5	63.6	45.6	11.5	24.8	15.0	29.7	11.5	9.2	18.6	38.6	34.6	17.7	2.5	1.0	2.3	7.8	52.2
2008	911	98.6	60.3	49.3	12.6	25.0	14.2	26.4	11.9	9.6	17.8	38.7	32.5	19.1	2.5	1.2	3.7	7.4	51.2
2009	867	97.5	59.7	50.1	12.8	22.7	14.4	27.6	11.9	10.5	17.6	38.7	33.1	19.1	2.7	0.9	3.3	7.1	51.4
2010	787	97.7	60.0	51.2	12.7	23.3	12.8	26.8	13.2	10.9	16.6	38.0	33.9	20.9	3.0	0.6	2.7	8.2	51.3
2011	759	98.6	63.8	53.1	11.6	23.2	14.0	26.2	12.5	11.7	17.1	39.8	35.2	20.0	2.6	1.4	3.3	9.4	54.2
2012	722	98.6	62.7	52.6	11.9	24.1	12.6	26.2	14.3	12.9	19.3	40.4	35.5	19.3	2.4	1.4	3.7	9.4	51.7
2013	667	99.0	60.3	54.5	10.8	24.7	13.6	28.6	16.0	11.8	19.0	41.9	35.3	18.9	2.8	0.6	3.7	9.7	50.0

表6 精神症状

検診年度	記載総数	あり	ノイローゼ	不安、焦燥	心氣的	抑うつ	記憶力低下	認知症	その他
	人	%	%	%	%	%	%	%	%
1979	5			20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980	5			20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
1981	29	79.3		13.8	24.1	6.9	0.0	10.3	13.7
1982	237	24.9		12.7	11.8	3.4		1.3	1.3
1983	509	82.9		75.8	42.9	46.3		12.8	0.4
1984	591	81.6		75.1	44.8	46.2		13.2	0.8
1985	391	68.5		58.6	29.1	46.3		6.4	1.0
1986	498	69.7		58.6	38.0	40.4		7.8	0.8
1987	542	69.0		54.2	42.0	36.9		6.5	0.6
1988	834		4.3			5.4		1.0	1.3
1989	1127		4.4			3.9		1.3	1.2
1990	1205		3.3			3.6		1.2	1.7
1991	1073			17.1	11.3	11.0	10.7	1.9	2.1
1992	1155	36.7		18.3	10.4	13.0	12.3	1.9	2.0
1993	1107	36.1		18.7	10.7	13.3	13.8	1.1	2.3
1994	1120	41.2		22.2	13.1	14.8	17.9	2.4	2.5
1995	1084	41.5		23.2	12.8	15.3	16.2	2.3	2.3
1996	1042	41.7		23.9	14.6	15.7	12.8	3.1	2.7
1997	1141	42.9		23.0	14.8	15.2	14.8	3.1	2.0
1998	1040	42.4		23.3	13.1	14.8	16.3	3.4	2.5
1999	1149	41.7		24.0	13.7	15.7	15.7	3.1	2.9
2000	1073	45.5		25.5	14.7	18.0	21.0	3.5	2.6
2001	1036	47.3		26.7	14.4	16.7	21.5	3.5	2.6
2002	1035	51.8		27.8	13.6	19.8	24.8	4.3	3.6
2003	991	52.0		28.7	13.4	20.2	24.4	4.0	3.3
2004	1041	54.9		29.7	13.5	20.8	27.0	4.9	4.9
2005	942	54.6		28.8	14.4	22.0	29.6	5.1	5.4
2006	912	52.3		28.2	12.7	19.6	29.4	6.2	4.8
2007	890	51.6		29.2	14.0	20.7	28.7	6.4	3.7
2008	911	54.3		29.4	16.3	20.5	28.9	7.0	4.8
2009	867	54.1		27.7	13.5	20.6	28.3	6.6	4.9
2010	787	55.8		30.1	14.4	22.7	29.4	7.3	2.7
2011	750	58.9		32.9	14.1	22.7	32.4	6.7	3.9
2012	716	55.7		29.9	13.7	20.3	30.6	8.0	3.6
2013	663	55.4		27.3	12.3	19.9	33.7	9.6	3.2

表 7-1 診察時の障害度

検診年度	記載総数	極重度	重度	中等度	軽度	極軽度
	人	%	%	%	%	%
1979	2	50.0	50.0			
1980	1	100.0				
1981	16	25.0	1.8	18.8	37.5	0.0
1982	360	0.3	19.2	53.9	26.4	0.3
1983	490	3.7	16.4	46.0	31.3	2.7
1984	566	3.7	19.3	45.8	29.0	2.3
1985	387	5.8	21.5	42.3	26.5	3.9
1986	497	5.4	21.7	42.1	26.6	4.2
1987	550	6.5	19.3	46.4	24.5	3.3
1988	824	3.7	17.7	43.5	30.3	3.5
1989	1114	2.4	18.3	46.1	27.2	4.8
1990	1131	3.6	17.5	40.9	28.2	3.7
1991	1059	3.8	20.7	45.1	26.0	3.1
1992	1150	3.5	17.5	50.0	26.8	1.8
1993	1045	4.0	19.3	46.1	28.2	2.4
1994	1087	3.9	18.2	46.4	28.0	3.3
1995	1034	5.1	17.0	47.8	27.1	2.9
1996	999	3.8	18.7	47.0	27.3	3.1
1997	1080	4.0	18.4	46.8	27.8	3.0
1998	990	5.0	18.8	46.6	26.8	2.7
1999	1098	5.0	19.4	46.0	26.9	2.8
2000	1003	4.8	18.6	46.2	26.4	4.0
2001	997	4.2	18.8	45.6	27.7	3.7
2002	1006	4.6	20.3	44.2	25.5	5.2
2003	959	4.8	21.5	43.7	25.5	4.4
2004	1010	5.0	19.8	45.1	25.6	4.4
2005	925	5.3	20.3	42.6	27.6	4.2
2006	880	5.2	20.7	43.7	26.7	4.9
2007	866	4.6	22.6	42.5	25.4	4.8
2008	829	4.7	22.4	42.5	26.2	4.2
2009	841	5.1	24.0	41.7	25.6	3.6
2010	768	5.1	25.4	39.5	26.0	4.0
2011	755	5.6	22.6	42.5	25.4	3.8
2012	716	4.9	23.0	42.9	29.1	4.1
2013	666	5.2	21.3	44.5	24.7	4.2

表 7-2 診察時の障害要因

検診年度	記載総数	スモン	スモン＋併発症	併発症	スモン＋加齢
	人	%	%	%	%
1979	0				
1980	1				100.0
1981	9	44.4	44.4	0.0	11.1
1982	301	74.8	9.0	0.3	15.9
1983	151	72.7	13.3	0.7	13.3
1984	170	61.6	19.4	1.2	17.6
1985	112	57.1	31.3	0.0	11.6
1986	171	64.9	21.6	0.6	12.6
1987	129	54.3	25.6	3.1	17.1
1988	796	56.5	28.9	1.7	8.4
1989	1096	66.0	24.2	1.0	8.9
1990	1100	56.5	32.3	3.2	3.5
1991	390	43.1	33.6	11.0	12.3
1992	394	44.9	34.5	9.4	11.2
1993	1056	52.3	36.4	1.6	9.7
1994	1081	49.7	39.9	2.1	8.3
1995	1038	45.8	44.8	1.4	8.0
1996	989	47.3	43.8	1.2	7.8
1997	1073	44.9	46.8	1.1	7.2
1998	989	45.8	46.2	1.2	6.8
1999	1093	44.2	48.8	0.7	6.3
2000	1009	39.8	51.6	0.6	8.1
2001	1000	35.6	54.9	0.7	8.8
2002	1006	37.3	54.2	1.1	7.4
2003	956	35.1	55.4	1.8	7.7
2004	1015	34.3	54.8	1.6	9.4
2005	928	33.5	57.3	1.5	7.7
2006	882	35.3	54.2	2.4	8.2
2007	866	31.8	58.0	2.0	8.3
2008	825	29.8	60.2	1.8	8.1
2009	840	32.3	59.6	1.8	6.3
2010	769	29.6	61.2	1.8	7.3
2011	756	24.9	64.6	2.8	7.8
2012	710	22.8	67.0	2.0	8.2
2013	665	21.6	67.1	3.5	7.8

表 8 最近 5 年間の療養状況

検診 年度	記載 総数	在宅	ときどき 入院	長期入院 または入所
	人	%	%	%
1979	203	93.6	0.5	5.9
1980	267	93.6	1.5	4.5
1981	362	85.4	3.3	11.3
1982	461	84.8	4.1	11.1
1983	541	84.3	3.9	11.9
1984	601	83.5	5.7	10.8
1985	416	79.8	7.7	12.5
1986	510	74.5	15.3	10.2
1987	578	75.4	16.3	8.3
1988	824	74.0	20.6	5.3
1989	1109	78.0	17.0	4.9
1990	1173	78.1	16.7	5.2
1991	1064	74.5	20.5	5.0
1992	1150	76.3	19.4	4.3
1993	1030	77.8	17.6	4.5
1994	1082	76.0	18.8	5.2
1995	1044	75.0	18.8	6.2
1996	1005	76.7	18.5	5.0
1997	1113	77.1	17.5	5.4
1998	1027	74.6	18.7	6.7
1999	1113	77.1	18.9	4.0
2000	1033	76.3	18.3	5.3
2001	1028	75.6	17.9	6.6
2002	1008	74.5	19.1	6.5
2003	962	75.6	18.2	6.2
2004	1023	75.4	17.6	7.0
2005	930	78.8	14.7	6.5
2006	891	77.7	15.6	6.7
2007	872	76.5	15.5	8.0
2008	889	75.0	16.0	9.0
2009	850	75.5	17.2	7.3
2010	773	71.8	19.4	8.8
2011	764	71.6	20.0	8.4
2012	722	70.6	19.8	9.6
2013	670	73.8	16.7	9.5

表 9 Barthel Index 得点分布

検診 年度	記載 総数	20 点 以下	25-40 点	45-55 点	60-75 点	80-90 点	95 点	100 点
	人	%	%	%	%	%	%	%
1991	1073	1.9	3.3	2.4	10.6	26.3	22.1	33.5
1992	1155	1.7	2.4	2.8	10.0	32.7	19.8	30.4
1993	1107	3.3	3.3	2.4	9.1	27.5	18.2	36.2
1994	1120	3.0	3.2	3.1	9.6	32.1	18.9	30.1
1995	1084	3.2	3.5	2.6	10.8	31.7	19.6	28.6
1996	1042	2.7	2.6	2.9	11.7	29.0	20.9	30.2
1997	1141	3.2	2.6	2.9	10.9	28.7	23.7	28.0
1998	1040	4.1	3.1	3.2	11.3	28.0	15.6	34.8
1999	1149	3.1	3.0	3.4	12.4	28.7	22.0	27.3
2000	1073	3.8	3.6	4.4	11.8	29.1	20.1	27.1
2001	1036	4.2	4.5	3.5	12.9	30.9	19.9	24.1
2002	1035	4.6	3.4	4.2	14.8	30.1	19.3	23.6
2003	991	4.7	3.6	3.9	14.4	30.0	21.1	22.1
2004	1041	4.4	3.7	4.8	15.6	31.2	19.6	20.7
2005	942	4.6	4.1	6.1	14.5	30.5	17.8	22.4
2006	912	5.7	3.4	6.6	14.6	30.2	18.8	21.5
2007	890	5.5	4.2	6.8	15.0	30.0	17.3	21.2
2008	911	5.0	5.0	6.3	16.2	27.4	17.4	22.8
2009	867	5.6	5.5	7.2	15.8	28.4	17.8	19.8
2010	787	6.4	3.8	7.4	16.3	28.4	16.8	21.0
2011	764	7.6	2.9	6.3	14.8	28.9	17.3	22.3
2012	727	7.0	3.7	5.8	17.6	26.7	17.5	21.7
2013	682	7.3	4.4	5.4	17.9	27.1	18.0	19.9

表 10-1 医学上の問題

検診年度	回答総数	問題あり	やや問題あり	問題なし
	人	%	%	%
1993	1022	29.3	39.6	31.1
1994	1057	30.9	39.3	29.8
1995	1052	32.4	35.6	31.9
1996	965	33.1	39.9	27.0
1997	1076	33.0	43.1	23.9
1998	1013	31.4	43.5	25.1
1999	1069	32.7	42.8	24.5
2000	983	36.7	40.0	23.3
2001	950	37.1	40.1	22.8
2002	965	34.7	37.4	27.9
2003	905	34.9	36.9	28.2
2004	971	39.5	34.3	26.2
2005	883	39.0	35.6	25.4
2006	846	39.6	31.9	28.5
2007	812	38.3	32.9	28.8
2008	795	41.0	34.0	25.0
2009	795	43.6	36.1	20.3
2010	727	40.3	35.4	24.3
2011	678	44.5	34.5	20.9
2012	631	45.5	33.3	21.2
2013	587	46.9	35.9	17.2

表 10-2 家族や介護についての問題

検診年度	回答総数	問題あり	やや問題あり	問題なし
	人	%	%	%
1993	1021	12.9	20.1	67.0
1994	1051	1.8	20.3	65.6
1995	1058	13.8	18.0	68.2
1996	1086	13.1	16.0	61.5
1997	1084	13.8	24.3	61.9
1998	1013	14.8	23.4	61.8
1999	1062	14.0	21.9	64.0
2000	984	16.1	23.1	60.9
2001	942	14.1	24.6	61.3
2002	969	14.4	23.4	62.2
2003	908	15.6	21.2	63.2
2004	974	16.6	19.6	63.8
2005	884	18.4	19.3	62.3
2006	847	18.7	17.2	64.1
2007	811	18.3	19.7	62.0
2008	792	21.3	22.6	56.1
2009	795	23.0	22.6	54.4
2010	729	20.3	26.7	53.0
2011	684	21.9	25.7	52.3
2012	627	23.0	24.2	52.8
2013	598	22.9	25.0	52.1

表 10-3 福祉サービスについての問題

検診年度	回答総数	問題あり	やや問題あり	問題なし
	人	%	%	%
1993	1006	5.8	15.3	78.9
1994	1043	8.5	15.8	76.5
1995	1051	6.9	15.4	77.7
1996	972	8.8	15.9	75.2
1997	1075	6.5	15.2	78.3
1998	1003	5.9	14.1	80.1
1999	1059	6.6	13.4	80.0
2000	973	7.3	13.5	79.2
2001	933	6.4	12.8	80.8
2002	963	5.8	11.0	83.2
2003	904	6.9	10.4	82.7
2004	973	6.1	10.3	83.6
2005	880	7.4	9.2	83.4
2006	846	7.3	10.1	82.6
2007	801	6.7	9.1	84.2
2008	785	7.8	11.5	80.7
2009	788	9.1	11.8	79.1
2010	726	7.6	12.8	79.6
2011	676	7.7	15.4	76.9
2012	625	8.0	15.2	76.8
2013	594	6.2	13.4	80.3

表 10-4 住居・経済の問題

検診年度	回答総数	問題あり	やや問題あり	問題なし
	人	%	%	%
1993	1008	5.0	8.8	86.2
1994	1043	8.5	15.0	76.5
1995	1057	5.0	8.0	86.9
1996	969	5.9	8.8	85.3
1997	1072	4.9	9.9	85.4
1998	997	5.5	10.3	84.2
1999	1055	4.9	10.0	85.0
2000	976	5.2	10.6	84.2
2001	932	6.1	10.4	83.5
2002	964	5.5	13.2	81.3
2003	903	5.8	12.5	81.7
2004	973	8.6	9.9	81.5
2005	886	6.7	8.4	85.0
2006	845	6.4	10.9	82.7
2007	807	6.2	8.0	85.8
2008	795	6.9	9.6	83.5
2009	789	7.1	11.2	81.7
2010	788	6.3	12.1	81.6
2011	671	6.0	13.1	80.9
2012	621	6.9	12.6	80.5
2013	592	7.1	10.6	82.3

表 11-1 介護保険を利用するための申請

検診年度	記載総数	申請あり	申請せず	わからない	回答なし
	人	%	%	%	%
2004	1041	41.6	56.3	1.2	0.0
2005	942	43.2	55.3	0.7	0.7
2006	912	44.6	54.6	0.5	0.2
2007	890	44.8	53.9	0.8	0.4
2008	911	43.6	54.6	0.9	1.0
2009	867	45.4	52.1	0.7	0.6
2010	787	46.6	52.5	0.9	0.0
2011	766	47.6	51.6	0.8	0.0
2012	725	50.2	49.5	0.3	0.0
2013	682	50.5	48.6	0.9	0.0

表 11-2 介護度認定結果

検診年度	介護保険申請者数	自立	要支援	要支援1	要支援2	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	未認定	分からない
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
2004	433	0.5	13.1			41.4	20.2	9.9	6.4	4.6		5.1
2005	407	1.7	11.8			41.4	19.4	10.0	6.6	4.7		4.4
2006	407	1.0	20.1			31.4	19.7	11.5	5.7	5.2		5.4
2007	399	0.5		9.8	17.5	20.1	23.3	13.0	7.5	4.3	0.5	3.5
2008	397	0.5		9.8	19.4	18.4	19.9	15.9	7.6	2.8	1.3	3.8
2009	394	0.5		8.9	17.3	19.8	22.1	14.0	7.9	4.8	0.8	2.5
2010	367	0.5		8.7	19.1	16.1	25.9	12.5	9.3	5.4	0.0	1.9
2011	364	0.6		13.0	16.9	14.7	24.4	12.7	9.4	5.5	1.1	1.7
2012	364	0.3		9.5	21.6	13.2	24.6	12.6	8.1	7.0	0.6	2.5
2013	341	0.9		10.8	18.7	14.3	24.3	12.0	8.8	7.0	0.6	2.6

事務局使用	性別	男・女	年齢	歳	診察場所	訪問 在宅・施設 病院	保健所 病院 その他	不明	県No.	個人No.
-------	----	-----	----	---	------	-------------------	------------------	----	------	-------

スモン現状調査個人票

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業
(難治性疾患克服研究事業) スモンに関する調査研究班

S.63年度	H.5年度	H.10年度	H.15年度	H.20年度	H.25年度
H.元年度	H.6年度	H.11年度	H.16年度	H.21年度	
H.2年度	H.7年度	H.12年度	H.17年度	H.22年度	
H.3年度	H.8年度	H.13年度	H.18年度	H.23年度	
H.4年度	H.9年度	H.14年度	H.19年度	H.24年度	

ふりがな		男・女	M T S	年	月	日生 (歳)
患者名						
住所	〒 TEL					
診察日	H 年 月 日	診察場所				
診察者	氏名:		専門分野:	所属:		
データ解析・発表に	1. 同意する: 口頭にて了承 or 署名			代理人 (続柄:)	2. 同意しない	

A. 病歴

発症 (神経症候): 昭和 年 月 (年令 歳)

スモン症候の最も重度であった時の状況 (昭和 年 月頃)

- a. 視力: 1. 全盲 2. 明暗のみ 3. 眼前手動弁 4. 眼前指数弁 5. 軽度低下 6. ほとんど正常
b. 歩行: 1. 不能 2. 要介助 3. つかまり歩き 4. 松葉杖 5. 一本杖 6. 不安定独歩 7. 正常
発症後の医療: 1. 当初より入院継続 2. 当初入院 (年間) 後在宅療養

3. 入退院のくりかえし 4. 在宅療養が主体で時々入院 5. 当初よりずっと在宅療養

これまでの運動機能訓練: 1. かなりやった 2. 少しはやった 3. ほとんどやってない

B. 現在の身体状況

- a. 栄養: 1. 不良 2. やや不良 3. ふつう 4. 良好
- b. 体格: 1. 高度やせ 2. 軽度やせ 3. ふつう 4. 肥満
- c. 食欲: 1. 高度低下 2. やや低下 3. ふつう 4. 亢進
- d. 睡眠: 1. 常に不眠 2. 時々不眠 3. ふつう 4. 過眠
- e. 視力: 併発症 1. なし 2. あり (白内障, 老眼, その他:)
1. 全盲 2. 明暗のみ 3. 眼前(約10cm)手動弁 4. 眼前指数弁 5. 新聞の大見出しは読める
6. 新聞の細かい字もなんとか読めるが読みにくい 7. ほとんど正常
- f. 歩行: 1. 不能 2. 車椅子(自分で操作) 3. 要介助 4. つかまり歩き(歩行器など) 5. 松葉杖 6. 一本杖
7. 独歩: かなり不安定 8. 独歩: やや不安定 9. ふつう
4~9のもの→ 10m距離の最大歩行速度 分 秒
- g. 外出: 1. 不能 2. 介助で可 3. 車椅子など補助用具使用で独力で可 4. 近くなら一人で可 5. 遠くまで可
- h. 起立位: 1. 不能 2. 支持で可 3. 一人で開脚で可 4. 一人で閉脚で可 5. 一人で継足位で可
Romberg 徴候: 1. あり 2. 多少あり 3. なし
- i. 下肢筋力低下: 1. 高度 2. 中等度 3. 軽度 4. なし
- j. 下肢痙縮: 1. 高度 2. 中等度 3. 軽度 4. なし
- k. 下肢筋萎縮: 1. 高度 2. 中等度 3. 軽度 4. なし
- l. 上肢運動障害: 1. あり 2. なし 握力 右 左 判定 低下, やや低下, 正常
- m. 下肢表在覚障害: A. 範囲: 1. 乳 (以上, 以下) 2. 臍以下 3. そけい部以下 4. 膝以下 5. 足首以下 6. なし
B. 程度: 触覚 1. 高度低下 2. 中等度低下 3. 軽度低下 4. 過敏 5. なし
痛覚 1. 高度低下 2. 中等度低下 3. 軽度低下 4. 過敏 5. なし
C. 末端優位性: 1. あり 2. 多少あり 3. なし
- n. 下肢振動覚障害: 1. 高度 2. 中等度 3. 軽度 4. なし
- o. 異常知覚: A. 程度: 1. 高度 2. 中等度 3. 軽度 4. ほとんどなし
B. 内容: (高度 中等度のものについてあてはまるものに丸をつける)
1. 足底付着感 2. しめつけ, つっぱり感 3. じんじん, びりびり感 4. 痛み 5. 冷感
C. 経過 (病初期と比べて): 1. 悪化 2. 不変 3. やや軽減 4. かなり軽減
(10年前と比べて): 1. 悪化 2. 不変 3. やや軽減 4. かなり軽減

事務局 使用	県No.	個人No.

- p. 上肢知覚障害：1.常にあり 2.ときどきないし自覚症状のみ 3.なし
- q. 上肢深部反射：1.高度亢進 2.亢進 3.正常 4.低下 5.消失
- r. 膝蓋腱反射：1.高度亢進 2.亢進 3.正常 4.低下 5.消失
- s. アキレス腱反射：1.高度亢進 2.亢進 3.正常 4.低下 5.消失
- t. Babinski 徴候：1.あり 2.なし
- u. Clonus : 1.あり 2.なし
- v. 自律神経症状：
- A. 下肢皮膚温低下：1.高度 2.軽度 3.なし B. 血圧：(臥位) _____/_____
- C. 尿失禁：1.常にあり(カテーテル おむつ) 2.時々(切迫性失禁 ストレス失禁) 3.なし
- D. 大便失禁：1.常にあり 2.ときどき 3.なし
- w. 胃腸症状：A. 程度：1.ひどくて悩んでいる 2.軽いが気になる 3.多少あっても気にしない 4.とくになし
- B. 内容：1.常に下痢 2.ときどき下痢 3.常に便秘 4.ときどき便秘 5.下痢・便秘交代
6.しばしば腹痛 7.その他()
- x. 身体的併発症：A. 有無：1.あり 2.なし
- B. 種類：(現在影響のあるもの+, あまりないもの+, _____の部は記入)
1. 白内障(++) 2. 高血圧(++) 3. 脳血管障害(++) 4. 心疾患(++)
5. 肝・胆のう疾患(++) 6. その他消化器疾患(_____, ++)
7. 糖尿病(++) 8. 呼吸器疾患(_____, ++)
9. 骨折(部位_____, ++)
10. 脊椎疾患(_____, ++)
11. 四肢関節疾患(_____, ++)
12. 腎・泌尿器疾患(_____, ++)
13. パーキンソン症候(++) 14. ジスキネジー(++) 15. 姿勢・動作振戦(++)
16. 悪性腫瘍(部位_____, ++)
17. その他(_____, ++)
- y. 精神症候：A. 有無：1.あり 2.なし
- B. 種類：1. 不安・焦燥(++) 2. 心氣的(++) 3. 抑うつ(++)
4. 記憶力の低下(短期・長期)(++) 5. 認知症(++)
6. その他(_____, ++)
- z. 診察時の障害度：1. 極めて重度 2. 重度 3. 中等度 4. 軽度 5. 極めて軽度
- (障害要因は 1. スモン 2. スモン+併発症())
3. 併発症() 4. スモン+加齢)

C. 現在の医療

- a. 最近5年間の療養状況：1.在宅 2.ときどき入院 3.長期入院または入所
- b. 現在治療を受けているか：1.受けていない 2.受けている スモンの治療, 併発症()の治療
- c. 現在入院中：(医療機関名) _____ (年 月より) }
現在通院中：(医療機関名) _____ (年 月より) }
- 医療機関種類：1. 大学病院 2. 総合病院 3. 専門病院 4. 診療所(医院) 5. その他
- 診療科：1. 内科 2. 神経内科 3. 整形外科 4. 眼科 5. その他()
- 通院頻度：_____回/月 [定期的・不定期]
- 通院方法：1. タクシー 2. 自家用車 3. 電車・バス 4. 歩いて 5. その他()
- 通院に要する片道時間：_____分 または_____時間
- 付き添いの有無：1. 常にあり 2. 時々あり 3. なし 4. 必要なし
- 現在往診を受けている：_____回/月程度 [定期的・不定期]
- 現在福祉施設入所中：名称 _____, _____年 _____月より
- d. 現在の治療内容：注射, 内服薬, 外用薬, 漢方薬, 機能訓練, ハリ灸, マッサージ, 物理療法(), その他()
- ハリ・灸・マッサージ施術 受けている場合：_____回/月程度
- これまでの治療での効果 (に記入：○=効果あり, △=効果なし, ×=副作用または悪化)
- [薬 物 療 法] ATP・ニコチン酸(点滴静注), ガングリオシド(筋注), タウリン(内服),
ノイロトロピン(静注), ノイロトロピン(内服), その他()
- [東 洋 医 学] 漢方薬, ハリ, 灸, その他()
- [リハビリテーション] PT, OT, その他()